

ちばしや通信

Vol.21



画 くさびら八郎

【トピック】

- ♪ 「寄り添うケアのはじまり」
- ♪ 地域でつむぐ
- ♪ 「心地よい関係性のバランス」
- ♪ 起業・就労・支援の間で…
- ♪ つれづれなるままに
- ♪ 各種イベント案内
- ♪ “ときがね”なひととき
- ♪ 法人からのお知らせ

寄り添うケアのはじまり

『みちこばあのやきもち②』（最終回）

「実践を通して考えたこと」

①必要な知識は、必要なとき

にこそ、身に付く

今回の実践で糖尿病を悪化させない為に「病気」について学んだり、「食事」「栄養」についての意識が高まり新しいことを学びました。今、目の前にいらっ

しやるミチコさんの「これ以上悪くならないようにしたい」という思いを支えるために必要な学びでした。普段職場内研修や勉強会で学ぶ機会も多々ありますがこのような機会に得た知識は実践を通してスタッフ自身の知識として身につけたのではと思います。

②ご本人の本気 思いが

スタッフを動かす

糖尿病へ向き合い病気の悪化を防ぎたいというミチコさんの

想いをスタッフが感じ、その思いに対して自分たちが出来ることは何だろうと考え、それを実践しました。スタッフ全員が同じ時期に同じ思いでスタートしたわけではなく一人の男性スタッフの取り組みから始まりましたが最終的に全員で取り組めるようになりました。

③「なぜ」その関わりをしているのか？

自分たちの日々の実践の積み重ねがミチコさんの想い「島で暮らしたい」を支えているのだと感じることはなかなか難しいです。しかし、目の前の状況に「何故、こうなったのか？」と常に問いかけ、分析しその上で、御本人と共に目標達成の為に「まず〇〇をやってみよう」と一つ一つのケアに意味づけをして行っていく事が必要だしチー

ムとしてみんなが一丸となって取り組めることを改めて実感しました。

一緒に畑に行ったとき、こんなことを話されていました。慣れない畑仕事をするスタッフに少し苛立った口調で、「そんなやり方じゃ、いかん！身体が動けば、教えてあげられるのに、できんのよ。」と。それは、スタッフへの苛立ちだったのでしょうか。笑顔も見られましたが、目が潤んでいるようにも見えました。ところが、その小さなもどかしさが、ふと消える瞬間があることに気がつきました。ある日、みんなで「やきもち」をつくろうという話になりました。教えてくれたのは、ミチコさん。やきもちは、昔からお祝いの時にも焼かれていた、自慢のお菓子です。ミチコさんは、やきもちを焼きながら、色んな話をしてくれました。豊かではなかった時代、お母さんと焼く、ごちそうだった話。その味を、引き継ぐために、娘たちと

焼いていた話。自然に笑顔がふれ、表情に熱がこもっていました。優しい口調、時には厳しい口調で教えてくれる姿。これが、ミチコさんなんだなって、思いました。それから、何かあるたびに、ミチコさんがやきもちを焼いてくれるようになりました。島の子供たちが遊びに来たとき、学校で島をあげての催しが行われるとき、来客を歓迎するとき。ミチコさんが、若い人にやきもちの焼き方を教えてくれる機会も増えました。やきもちを焼くたびに、ミチコさんが還つてきました。

「いつも、ありがとうね」ミチコさんの口癖が今では、みんなの口癖になりました。

介護が必要になった人は、何もできない人じゃない。それを、身をもって示してくれたのがミチコさんの『人は、人の中で人になる』

人が最期まで自分の人生を生きてきけるため、最期まで自分の人生の主人公であるためには、心

を通過させたつながりが大切であることを。

ミチコさんが暮らしを通して教えてくれたことです。

黒岩尚文（くろいわなおふみ）

高校卒業時、お金が全く無くて進路指導の先生から「消防士がいい」と言われ喜んで受験。しかし見事不合格。気を取り直し当時最も学費の安い福岡大学商学部を受験。まぐれで合格。お好み焼きを4年間焼き続け卒業。卒業後、東京の不動産会社に入社。2ヶ月で鹿児島弁しか使えないことを見抜かれ福岡支店に流される。1年後、フリーの不動産屋となり東京へ戻る。多くの方々にご飯を食わせて貰いなんとか生きていたが朝、突然、顔面神経麻痺になり帰郷。リハビリの甲斐あつてか、無かったか1年程かかって今の顔。平成7年4月より福祉の仕事につく。翌年5月より宅老所活動を始める。平成19年6月加治木町で共生ホームよかあんべという小さな小さな事業所を開設。細々とやっています。平成22年5月よりトカラ列島宝島 北海道幌加内町にも関わる。



福祉絵本「おじいちゃんは人気者」
(1冊：300円)

地域でつむぐ

東日本大震災の地震と津波で大きな被害を受けた石巻市渡波（わたのは）地区。その渡波地区に、地域の人達の声を受けて、小さな福祉事業所が誕生した。名称は、「よつてがいん」。

地域の方言で、「どうぞ、お立ち寄りください」という意味だ。震災で一度は途切れた？途切れかけた地域の関係をどんな形で紡いできたのか？紡いでいるのか？代表の糟谷裕之さんからのレポートで考えていきたいと思えます。

「よつてがいん」は…

「よつてがいん」は、石巻市渡波地区で、築40年ほどの民家を借りて運営している共生型デイサービスです。

テレビを見ながら噂話に熱心になる人や台所で昼食の支度を手伝っている人、自宅とれた

野菜をお土産に近所から遊びに来て一緒に昼食を食べて行く人など、皆さん自分の家に居る様に過ごしています。「よつてがいん」では認知症の方や障がいがある方も普通の暮らしをして、地域の中で支え合っているように共に考えて、時に振り回されながらも楽しんで、職員は利用されている方達にとことんお付き合い出来る様にしています。

よつてがいんの前身は「ちよこらい」という、渡波で被災された方に入浴支援をする為のサロン活動でした。被災家屋の一部を活用して始まった「ちよこらい」は、避難所の方や在宅避難者にとつて、お風呂にゆつくり入って心と体の疲れを取り、集まった住民やボランティアがお茶っこ飲みを通して絆を深める大切な居場所でした。そんな「ちよこらい」も避難所の閉鎖で活動の転換期をむか

え、住民とボランティアが話し合って決めたのは、利用している方の中でも高齢者独居や障がいのある人たちの無くてはならないものとして活動を続けていく事、継続性を高める為にNPO法人格を取得してデイサービスにする事でした。

そうした経緯をへて、2013年6月にNPO法人格を取得し、同年9月に高齢者や障がい者でも共に過ごす事の出来る居場所として介護保険の通所介護（デイサービス）基準該当障害福祉サービス事業所をスタートさせました。

5年という月日がたち、よつてがいんの中でも、認知症の方や、親が高齢になり将来の生活を考え出さなければいけなくなってきた障がい者の方も増えてきました。

次号から、開設時からの出来事を紹介していきたいと思えます。
(糟屋裕之)

心地よい関係性のバランス

第9回 相談支援と具体的なサービスの関係

2種類の相談

「サービスがないのに相談を受けても意味がない」。よく、そんなことを思った。15年くらい前、まだまだ知的障害者福祉は入所施設が中心だった頃、地域で暮らす人たちのために施設がつくった相談窓口の相談員をしていたことがある。学生時代、相談員として仕事をするための勉強をしていた私は、待っていましたとばかりに、その仕事に取り組んだ。「これこそ、私の仕事！」と思い、一生懸命来談者の話に耳を傾けた。そして、だんだんとわかってきたのだ。

相談には大きく分けて2種類のものがある。当時の私は、そう感じるようになっていった。ひとつは、心の中に整理のつかないぼんやりとした塊があった、その塊をていねいに分解し、自分の心の中を整理し、見つめ、

解決していく手助けをするようなもの。そしてもうひとつは、困っていることがはっきりしていて、その困りごとを解決する手立てを探すのを手伝うようなもの。私が学生時代に学んだのは前者が中心だった。にもかかわらず、私の担当する相談窓口には後者の人たちの利用が圧倒的に多かったのだ。

対応できるサービスがない

「自分の子どもの障害を受け入れることができずに苦しい」というようなものが前者だとすれば、「来週の火曜日の午後には、誰か3時間くらいうちの息子を預かってくれる人を知りませんか？」というのが後者にあたる。

「どうしても行かなければいけないところがあるのだけれど、いつも障害のある息子を預かってくれるおばあちゃんが旅行に

行ってしまつて、ほかに誰も頼る人がいないのです」というような相談は技術的には前者のような相談ほど難しくはないはずだ。なのに、私はいつも絶句するしかなかった。当時は、そういう困り方に対応できるサービスはひとつも存在しなかったのだ。唯一出せる答えとしては、「私が、預かりましょうか？」くらいなのだ。そんなことがあるだろうか。これでは、専門性も、学んだ技術も、何の役にもたたない。必要なのは、善意とやる気。それくらいしか解決法がないのに、相談窓口を開いても意味がないのではないだろうか……。そんなことを感じる日々だった。

相談支援に足りないもの

この15年で驚くほど地域サービスは進歩した。少なくとも、15年前には「私がその時間預かります」と言うしかなかった同じ相談にも、今では「どこのサービスにしましょうか」と選択肢

東金市内の小規模保育事業所紹介

就労などのため家庭で保育のできない保護者に代わって、0～3歳未満の児童を対象とした少人数（定員6～19人）の保育を行う事業です。

(施設名)	(地区)	(対象年齢)
①託児ルームぐるんぱ	家徳	満3か月～3歳未満
②まりんキッズ	東岩崎	満3か月～3歳未満
③まりんキッズ第2園	東岩崎	満1歳～3歳未満
④東金さくら園	東金	満8か月～3歳未満
⑤東金第2さくら園	東新宿	満8か月～3歳未満
⑥ときがね保育園	東金	満1歳6か月～3歳未満
⑦いちご保育園	東岩崎	満8か月～3歳未満

(※東金市HPより抜粋。詳細はHPを確認ください。)

を絞るのを手助けするような対応ができる。これで、ようやく相談窓口を開く甲斐があるというものだ。やっと、こんな時代がきた。と、喜んだのも束の間、どうも何か物足りない。相談というのは、サービス紹介ではないはずだ。

具体的な困りごとが解決しやすくなったこの頃では、サービス利用では解決できない困りごとが行き場を失って、あちらこちらにふわふわ浮遊しているような気がしてならない。サービスは足りている。でも何か足りない。心の中に整理のつかないぼんやりとした塊が、誰にも分解してもらえずに、大きくなると、やがてその人の人生を支配してしまうこともある。「息子を3時間預けたい」という困りごとに対して、「3時間預かる場を提供する」のが唯一の答えではない。「3時間お母さんの話を聞く」ことがもっとも適切な解決方法である場合もある。はつきりした困りごとで

あっても、耳の傾け方ひとつで、いろいろなニーズが聞こえてくることもある。

障害のある人やその家族の暮らしにはサービスは欠かせない。しかし、欠かせないけれども、それがあれば安心かと言えば、そうとは限らない。サービスは必要だが、それだけでは解決できないものを解決していくこともまた、必要なことだと思う。地域に利用できるサービスができてきた今だからこそ、はつきりしない困りごとを分解できる、はつきりしていることの中に隠されている困りごとを発見できるプロの相談員が必要なのだ。相談とサービス、両方がバランスよく機能する地域にだけ、ようやく安心が届くかもしれない。

※この原稿は、Juntos（フントス）CLC発行の情報誌からの転載です。著者と発行者承諾のもと転載しています。

大友愛美（おおともよしみ）

北海道生まれ北海道育ち、生粋の道産子です。大学卒業後、最初の福祉現場、知的障害者入所施設では地域と施設をつなぐコミュニティワーカーのような仕事をし、その後は地域で生きる人たちを支える仕事をしました。どちらの現場でも自閉症の人たちとの出会いが多く、たくさん悩み、たくさん学びました。最近では、共生社会の実現を目指すNPO法人での仕事や、福祉の担い手を育てる場（学校や研修）での仕事をしつつ、自閉症など地域で生きにくい状況を抱えた人たちの相談や支援の仕事もしています。他の多くの人と違っていても排除しない、されない社会の構成員になるためには、学ぶだけではなく、いろいろな人と一緒に暮らす練習が必要なのかもしれないな…と感じている今日この頃です。

『びころ流』

ともに暮らすためのレッスン

1,600円＋税 絶賛販売中

※お求めになりたい方は、当法人までご連絡ください。



東金ひと・しごと・くらしサポートセンターこころん

当法人では、平成28年5月より、東金市の委託を受け「東金市生活困窮者自立相談支援事業」の業務を開始しました。

概要は、ホームページ又はチラシをご確認ください。

- ◆営業日・時間
月曜日～土曜日 9:00～18:00
- ◆相談電話
0475(50)4251
- ◆メールアドレス
cocoron@ninus.ocn.ne.jp
- ◆所在地
東金市東上宿3-15



起業・就労・支援の間で…

福祉のタウンミーティングのできごと

(コミュニケーションワークス 理事長 筒井啓介)

参議院議員選挙が終了し、与党圧勝+改憲派2/3という結果になりました。この結果の捉え方は人それぞれだと思いますが、今回も障がい福祉についてほとんど議論が上がらなかったことはとても残念でなりません。政治の範囲は多岐に渡り、全てを選挙期間中に取り上げるのは難しいことも承知していますが、その仕事に携わる私としては投票先を決める一つの材料として話題に上げてほしかったなと思っています。当事者やご家族はもっとその気持ち強いのではないのでしょうか。候補者の考えていることを引き出すために、私たち市民ができることを考えないといけないのかもしれない。

堂本暁子前千葉県知事が参加される福祉のタウンミーティングの企画運営に関わる機会がありました。市原君津地域の発起人の中に私の知り合いの方がいらっしゃり、その方からお声掛け頂いたことがきっかけだったのですが、どういうわけかいつの間にか私が実行委員長になるという珍事に。今振り返れば、当時はまだ20代前半だったので、若者が関わることをアピールする役目もあったのかもしれませんが。

学生時代から私と関わって下さっている方はご存知かと思いますが、当時(今も?)私はなかなかの世間知らずで失礼極まりない態度を周囲に振りまいていました…。タウンミーティングは千葉県と実行委員会との共催でしたが、企画内容や運営方法について県側からZのを出されることもあり、県の担当者から「詳細を詰めたので県庁に来てほしい」とお電話を頂いたことがありました。その時なんと私は「なぜ私が出向かないといけないのか。私は詳細を詰める必要がない(実行委員会で考えた企画をそのまま実行したい)」ので、必要があれば県の皆さんが私の会社に来てくださる県の方には私の会社にお越し頂いたのですが、当然打合せは険悪ムードたつぷり。相当な言い争いをしたと記憶しています。当時の課長も含めてこんな私によく付き合ってくれたなどと、申し訳ない気持ちでいっぱいです。

とはいえ、タウンミーティング自体は多くの方々の熱い想いとご協力のおかげで、大盛況のうちを終えることができました。それまで福祉のことを考える機会はほとんどなかった私でも「千葉の福祉は変わるかもしれない」と本心で感じるくらい充実した半年間でした。失敗や反省点もたくさんあったのですが、私自身も学ばせて頂くことがたくさんあり、何より千葉県内の福祉に携わる多くのすばらしい方々と出会うことができたのは、その後私が障がい福祉に携わる原点でもあったと本当に感謝しています。

Natural Café+Shop hanahaco



営業日：11時～16時（定休日：火曜）

木更津市矢那 1879-1

電話：0438-38-4368 メール：info@npo-cw.net

Facebook：https://www.facebook.com/hanahaco.k/

つれづれなるままに

梅雨時特有の寒暖差と湿気の多さに自身の我が身は悩まされている。

加えて暑い時期の愛犬の散歩はサマータイムで、朝は5時半に出発、夜は涼しくなるのを待つので、大体8時半過ぎとなり、必然的に睡眠時間が削られることになる。なかなか体調管理が難しい時期でもある。

先々に、某生命保険会社が毎年実施しているサラリーマン川柳の発表があった。例年楽しくもあり、我が身に重ねて哀愁を感じるものがあると、ユーモアを持ち合わせていない自分には「そのとおり」だと共感する作品が幾つもあり作者のセンスに感動している。

今年の大賞は「退職金もらった瞬間妻ドローン」(元自衛官)、何か自分も危うかった様な気がする。第4位「娘きて(誰もいないの)オレいるよ」(チャッピー)、これは女性の支持率が

高いそうだがこれもよく分かる。第10位「愛犬も家族の番付知っている」(ワンワンマン)これには格別に親しみを感じる。ベスト10には入らなかったが、第14位「じどり棒、味はタレかと聞くじいちゃん」(小鉄)、ニユースを見ていなければ多分自分もこの様な質問をするのではないかと思う。第17位、これが一番共感したが「気を遣い、妻を目で追うオレとイヌ」(鉄人82号)。

自分も来年こそは、チャレンジしたいと思うが・・・なかなか難しい。

さて、間もなく梅雨明けを迎え、夕立位でほとんど雨は降らず猛暑日が続くことになる。熱中症について、耳にタコが出来るほど言われているところであるが、私も含め、「他人事ではなく、自分のこととして捉え」体調管理には十分気を付けていきたいところだ。

それから、本会では、障害児者や高齢者の方々への、様々な

サービスを提供させて頂いている。更に、5月からは生活困窮者の相談・就労支援事業も始めさせて頂いた。この間に至る関係機関及び関係者、応援して下さい。

こうした、関係機関・関係者の期待に応えるためにも、私たちは、今以上に活動・事業にしっかりと向き合わなければならぬと思う。

それぞれに、担当する業務に違いはあるものの、関係法令・制度の中で日常業務を行っている。各職員も一般的な制度の仕組みは理解していると思うが、制度創設の背景・どうしてこの法律が制定されることになったのかを探ることによって、仕事への認識もさらに深まり、法律の条文の間にあるものを汲み取る事が出来る様になるのではないかと考える。

例えば、平成12年に、社会福祉の基礎構造改革が行われ、戦後の時代背景の中で生まれた多

くの法律が、少子・超高齢社会を迎える中で、主な法律の名称を変更するとともに、内容についても抜本的な改革がなされた。(平成12年4月1日に介護保険制度がスタート)そして、近年の社会状況の大きな変化から、社会保障の財源を巡り、社会保障と税の一体改革へと繋がって来る。

私たちは、福祉の専門職・プロとして、仕事や多忙な日常の間で、そのあたりのことにも関心を深め、向き合い、思考の幅と深みをつくっていくことが大事ではないかと私は思うのである。

(総合施設長 齊藤 操)



きもの地サロン	ヨガサロン	穂垂るの会
<p>着なくなった着物をほどこき、アクセサリー、ポーチ、バッグ、タペストリーなどの小物から服まで、その人に合わせてリメイクするサロンです。</p> <p>開催日：8月8日（月） 8月22日（月）</p> <p>※興味のある方はご連絡ください。 鶴嶺の家（50 - 0285）</p>	<p>健康管理、仲間づくりにヨガをはじめませんか？</p> <p>旧道の岸本薬局の斜め向かいにある「ありさ」の2階で開催中。</p> <p>開催日：8月3日（水） 8月24日（水）</p> <p>※興味のある方はご連絡ください。 ありさ（50 - 0362）</p>	<p>介護している方々が集まって日々の苦労話等を気軽に本音で話し合う会です。</p> <p>開催日時：8月11日（木） 13:30～15:30</p> <p>会場：ふれあいセンター 経費：200円（お茶代）</p> <p>主催・連絡先：穂垂るの会・井上 (090-7171-1701)</p>

ときがね・街かど福祉塾

「ときがね・街かど福祉塾」は、東金・山武地域の市民や福祉・介護・子育て・まちづくり関係など、人に関わる活動や仕事をしている人たちの学習の場、思いの共有の場、新たな縁（えにし）の場づくりとして実施しています。

東日本大震災以降中断していたものを、昨年10月より、月1回ペースで実施しています。ぜひ、ご参加ください。

対象：興味のある方ならどなたでも
定員：30名

（問合せ先：ちば地域生活支援舎
Tel:0475-53-3630）



《第12回》

「コミュニティビジネスを学ぶ（仮題）」

日時：平成28年8月23日（火）

18:30～20:30

会場：東金市中央公民館・研修室

講師：筒井啓介

（コミュニティワークス 理事長）

《第13回》

「誰もが自分らしく地域で暮らし続けるために・・・あるべき相談支援とは（仮題）」

日時：平成28年9月13日（火）

18:30～20:30

会場：東金市中央公民館・第1会議室

講師：朝比奈ミカ

（中核地域生活支援センター
がじゅまる 所長）



ときがね な ひととき

鴉嶺の家（高齢者・障害者）

鴉嶺の家では夏になると必ずやらなければいけないことがあります。それは…草むしりです。毎年のように男たちは庭、駐車場という戦場へ向かい、己の体力と気力、炎天下と闘います。今年もそんな夏がやって参りました！

今月号は、そんな草むしりに挑む勇敢な戦士のご紹介です。まずは、鴉嶺の家・草むしりのエース、Hさん。彼は主に駐車場の草むしりを担当してくれま

らゆる草を一掃してくれるプロフェッショナルです。

そして特攻隊長Mくんは、鴉嶺の家周辺の担当です。几帳面で細かい作業を得意としています。自ら庭へ出ては手袋をして、小さい草まで抜いてくれます。まさに草むしり界の精密機械なのです。

去年は近所のお兄さんが草むしりを手伝ってくれたな…、お兄さん今何をしているんだろう、と去年を思い返してしまいました。

また、ぜひ手伝いに来てくださいね！

夏はまだまだこれから！草むしりだけではなく、海にも遊びに行くぞー！

鴉嶺の家（児童）

暑さが日ごとに増してまいりましたが、皆様お元気にお過ご

しでしょうか。一人遊びが好きで、お友達と遊ぶことがあまりなかったY

ちゃんが、Kくと仲良く遊ぶことが増え、公園に誘うとKくんの手を引き公園に行く姿や、シーソーと一緒に遊ぶ姿などを見ると微笑ましくなります。また、年下のSくんがYちゃんの後をついて回ると、一緒にトラップリンで遊んだり、少しお姉さんのYちゃんも見られるようになりました。

スタッフに頼んで絵を描いてもらい、色塗りもして貰っていたTくんが、一人で絵を描き、色塗りまで上手に出来るようになっていたり、Kくんが学校から帰ってきて、自分で連絡帳を出し、リュックを棚に置くことが出来るようになったり、Uちゃんの言葉が増えたりと、皆それぞれ日々成長が見れて嬉しく思います！

子ども達に負けないように、私たちスタッフも日々成長していきたいです。

これから夏休みに入り、子ども達と過ごす時間が増えるので、また沢山の成長が見られる

ことを期待しています！（笑）

子ども支援センター ぽけっと

梅雨が明けると暑い夏。今年には特に記録的な暑さになりそうだと施設長からのお話もありました。子ども達はもちろん、スタッフにも熱中症対策を徹底していきたいと思っています。そして梅雨が明けると賑やかな夏休みもやってきます。「怪我なく、楽しく！」をモットーにたくさん遊びたいと思っています。

今年、高校3年生が2人、ぽけっとで過ごす最後の夏休みになります。小学生の頃からご利用されていたので、ちば舎開設当初からいるスタッフや鴉嶺のおじいちゃん、おばあちゃん達が「もうそんな歳になったんだね」と懐かしそうな、寂しそうな顔で2人の思い出話を聞かせて下さいます。

当時の鴉嶺の家は、高齢の方も障害のある成人の方も、子ども達も一緒に過ごしていたの

で、家の中でバタバタしたり、大きな声を出しては怒られたりしていました。また、挨拶やお手伝いをするときたくさん褒めてもらったり、たまにお菓子を頂いたり、子ども達にとつては良い事、悪い事を教えてくれる、昔よくいた近所の大人の存在でした。私たちも「あんだ達がついてて、何やってんだい」とよく叱られました(´▽`)

サポートセンタースピリッツ

最近、病院への付き添いの支援が多く、東金付近の病院から遠くは柏の病院まで付き添うことがあります。病院も様々。総合病院から個人病院。新しい病院から古い病院。そこで感じ

ることが多々あります。丁寧な受付の人、無愛想な受付の人。親切な看護師さん、忙しそうで冷たい看護師さん。患者の目線で説明がしっかり出来るお医者さん、目も合わせてくれないお医者さん。建物や医療設備に目をとられていると、おやおやという病院もあります。印象というのは人によって違いますが、私たち介護職も皆さんの目線で様々な印象で捉えられていると思います。その印象が前文にあげた後者にならないよう丁寧な対応を心がけていきたいと思えます。

街かど福祉相談室ると

今年も猛暑日の季節がやってきました。最近、外出時や車の中では、半袖より長袖の方が暑さを凌げるように感じる今日この頃、夏が苦手な私は、早く秋になるのを待ち望む毎日です。さて、「福祉サービス受給者証」の更新月には、市役所での

更新手続きをお願いすると共に計画書を作ることに作成し、市町村に提出します。

更新月を迎える方については、早めにモニタリング日程についてご相談のお電話を致しますので、お忙しいところ恐縮ですが、よろしくご協力をお願い致します。

ハンドワーク

◆生活介護

梅雨に入り、じめじめと湿気の多い時期になっていますね。皆さんはいかがお過ごしですか？

今月は、東金特別支援学校より実習生が来ていたため、一緒に散歩に出掛けたり、体を気遣いながら、ボール投げをしたり楽しい時間を過ごしていました。

実習最終日には、ハンドの利用者さんとても仲良くなっていました。実習生が模造紙に絵を描いたものに、おりがみで飾

り付け作業を進めています。以前に植えたコスモスも、花が咲いてきて、ひまわりも少しずつ大きくなっています。花がきれいに咲くのとても楽しみにしながら水やりをしています。

◆就労継続支援B型

6月はイベントでの販売に、特別支援学校からの実習期間などなど、盛りだくさんの1ヶ月でした。

18日のシナリーの里での販売では、多くの方に手に取って頂き、「誰が作ったの?」「おすめは?」などなど声を掛けて頂き、とても励みになりました。

その中で、カゴ作りが好きなAさん、「売れるようにお守りにお願いするの」と、前日からやる気満々!販売席に着くと早速「いらつしやいませ!」といつもより大きな声でお客様の呼び込み。普段はなかなか見ることの出来ないAさんの一面を知ることが出来た1日でした。

6月の中旬から下旬にかけ

て、支援学校からの実習期間で
した。初めての環境、初めての
作業など、初めてづくしの中で
も段々と笑顔が増えていく様
子に、少しずつ本人らしさを出
せる環境を作らなければと、改
めて考えさせられた2週間でし
た。

ありさ

ありさでは、「自分の事は出
来ただけ自分でやる」を今年の
目標として掲げています。

普段から出来るだけ自分で
色々な事をやっていますが、そ
れぞれ自分の役割を見つけて、
お互いを手伝うこともしていま
す。それを見られるのが、昼休
みと午後の休み時間です。

昼休みになると昼食の準備を
始めます。順番にお弁当をチン
したり、お茶を入れて配ったり、
それぞれ自主的に動いていま
す。中には、ポットの水が少な
くなるとお湯を足してくれる人
や、食後にポット用の水をペッ

トボトルに汲みに行くことを日
課にしている人もいます。午後
の休みはおやつの時間です。こ
こでは、皆の使うコップを洗っ
て持つてくる人やコーヒー・紅
茶を入れる人、人数分のお菓子
のお皿を用意する人、お菓子を
お皿に乗せる人、お茶・お菓子
を配る人、自主的だったり頼ま
れたりしながらそれぞれが動い
ています。



五根の家

◆小規模多機能ホーム

7月なり、暑さも段々と厳し
くなってきましたが、お年寄り
の方々は元気に過ごされていま
す。入院されていた方も戻られ、
活気も取り戻してきました。

現在、通いで来られる方は女
性が多く、料理の下ごしらえや
食器拭きをして頂いたり、洗濯
物を干したり畳んだりして下さ
り、我先にと、まるで仕事の取
り合いのようです(笑)

また、最近は歌の好きな方が
多く、一人の女性が唄うとそれ
につられるように皆さんで「大
合唱」となります。男性は圧倒
されて、静かな部屋に移動して
休まれていました(^-^)

嬉しい話題の中、先日哀しい
出来事もありました。通われて
半年の男性が先日、ご逝去され
ました。大変優しい方で、「何
かあれば手伝うから!」とよく
言って下さり、野菜の下準備等
手伝って下さいました。徐々に
足取りが悪くなると、スタッフ
が手を引きながら歩くと恥ずか
しそうにされていました。最期
は慣れ親しんだご自宅でご家族
の見守られる中、眠るように息
を引き取られました。大切な時
間を一緒に過ごさせて頂き、あ
りがとうございます。スタッフ

一同、ご冥福をお祈りいたしま
す。

◆グループホーム

先日、Yさんのご家族から大
きなスイカを頂きました。お年
寄りやスタッフと一緒においし
く頂き、皆、口を揃えて「甘く
ておいしい!」ととても好評で
した。Yさんは自分のスイカを
他のお年寄りやスタッフに分け
て下さり、笑顔がとても素敵で
した。

他にも、ご家族がご本人の好
きな食べ物を色々持参されて
面会に来られます。それぞれ、
ご家族が持参されたお刺身やお
はぎ、果物、飲み物など、おや
つや食事で嬉しそうに召し上が
られています。Hさんは仕事帰
りに面会で来られた息子さん
と、持参されたアイスクリーム
をお部屋で一緒に美味しそうに
召し上がっていました。
ご本人の好みを良く知ってい
るご家族が色々差し入れをさ
れ、おいしそうに召し上がりな

がらご家族の話をされている姿を見ると、食べ物もそうですが、面会を通じてご家族と過ごす時間が何よりのごちそうなのだと思います。

今後も、面会に限らず、自宅や外出なども含めて、ご家族とのつながりのある時間を大切に出来たらと思います。

地域福祉情報・相談センターりんく

営業：午前10時～午後8時

場所：東金ショッピングセン

ター「サンピア」内1階

(ステージコート脇)

内容：福祉、介護、子育て、

ボランティア・市民活動

に関する情報提供、相談

★福祉・介護・子育て等に

関する情報の掲示・配布

をご希望の方は、本会ま

でご相談ください。

詳しくは、総務・企画課まで
ご連絡ください。

(0475533630)

法人本部より

平成28・29年度の役員体制が、決まりましたので、お知らせいたします。

《代表理事》

宮下 裕一(再)

松本 誠康(再)

《理事》

鎗田 敏光(再)

篠崎かおり(再)

土肥 豊(再)

日暮久美子(再)

伊藤 英樹(再)

大井 純(再)

太齋 寛(再)

齊藤 操(新)

阿知波純子(新)

《監事》

堀切 明美(再)

山越 孝浩(新)

※新たに理事になった方の紹介は、今年度の後半号にて行います。

スタッフ募集

子どもや障がい者、お年寄り等、人に関わる活動に興味のある方、一緒に働きませんか？

日数・時間・曜日・内容(介護・保育・支援・食事づくり・清掃など)・年齢等ご相談に乗りません。

興味のある方は、ぜひ当法人にご連絡ください。

(0475533630)

ボランティア募集

趣味や特技、仕事を通じて身につけたスキル、体力等、自分らしさを生かしたボランティア活動をやってみませんか？

ボランティア活動を通じて得られる効果は無限大です。

子どもや障がい者、お年寄り等、人に関わる活動に興味のある方は、ぜひ当法人にご連絡ください。

(0475533630)

編集者のつぶやき

先月号発行から3週間、筋肉痛？腰痛？に苦しみました。息抜きも、ほどほどにということでしょうか。さて、来週からは、ときがねの子供たちが夏休み！昔はよく思いっきり一緒に遊んだものですが、最近はめっきり関わりが減ってしまいました。今年も楽しいひと時になるようにしたいと思います。(jerry)

先月はあちらこちらに紫陽花が咲いていて綺麗だな～と思っていましたが、段々と湿度が高くなりじめじめと暑い日が続いていますね。私は暑さに弱いので毎日タオルをかかせません。毎年脱水症状になりかけるので今年も十分に気を付けてこまめに水分補給を心がけたいです。(W)



ちばしゃ通信 (Vol.21)

発行日：2016年7月19日
発行元：ちば地域生活支援舎
編集責任者：宮下・太齋
連絡先：0475-53-3630